

4 歳児さくら組 保育指導案

男児 8 名 女児 6 名 計 14 名
指導者 ○○ ○○

1 本園の研究主題との関連から

(1) 本園教育課程 4 歳児の重点目標

幼児が自分らしさを発揮しながら、豊かな感性や道徳性の芽生えを大切にするとともに、友達を尊重する人間関係の広がり育てる。

○自己発揮する力の伸長 ○人間関係の広がり重視 ○健康・安全への意識化

(2) 教育課程Ⅲ期（9・10月）の求める姿及び領域のねらいと内容（抜粋）

Ⅲ期： 気の合う友達や教師と一緒に遊びをつくっていく時期

ねらい ○ 戸外で体を動かして遊ぶことを喜ぶ。
○ 身近な動植物に触れたり、親しんだりする。
○ いろいろな道具や素材を使って自分の好きな遊びを楽しむ。

内 容 ○ 運動的な遊びを楽しみながら遊ぶ。
○ 園庭の虫をとることを楽しみ、関わりながら虫の種類や居場所に興味をもつ。
○ 自分の好きな遊びに取り組み、繰り返しながら遊ぶ。

(3) 4 歳児における環境教育で大切にしていること

- 集団の中で自分の力を発揮する機会を十分に保障しつつ、遊びや活動を通して、友達と一緒に行動する楽しさに気付かせる。
- 感触の違いや特性を感じたり、用途によって必要な物を使い分けたりすることができるように、色々な素材や道具との出会いを充実させる。
- 園周辺や大学構内の自然に繰り返し関わり、遊びに使ったり、生き物の世話をすることや野菜や花の栽培をしたりすることを通して、新しい命の誕生や生き物の死、栽培物の生長や収穫などに心を動かし、身の回りの自然への興味や親しみをもって関わる気持ちを育む。
- Ⅲ期においては、友達と一緒に遊んだり、過ごしたりする中で、自分の思いを言葉で表現して相手に伝えたり、相手の話を聞いて、受け止めたりするなど友達とやりとりをしながら、一緒に遊ぶ喜びを感じさせる。また、いろいろな道具や素材との出会いを通して、適切な使い方、量を考えながら使い、学級や園にあるものを大切に使う気持ちを育む。

2 幼児の実態

1 学期にカブトムシ・ツマグロヒョウモン・モンシロチョウなどの世話や、キャベツ・ピーマン・ナス・トマト・イネなどの栽培・収穫を通じて、身の回りの動植物に対して興味をもっている。

2 学期に入ってから、夏野菜や冬野菜の水やりを自分たちから進んで行うことを継続している。また、園庭やトンネル山でカマキリやバッタ、コオロギなどの虫を毎日探し、生きものが死んでし

まわらないように餌を与えたり，図鑑や年長児の飼育の仕方を見て，真似をしながら，必要と思うものを入れたりすることにも関心をもち始めている。

気の合う友達と好きな遊びを見付け，一緒に遊ぶことを楽しんでおり「○○ちゃんと一緒」「私も一緒」と，友達のしていることに興味をもって真似をしたり，友達と同じことをしたりすることを喜んでいる幼児が多い。しかし，主張が強い幼児もいれば，自分の思いを伝えきれない幼児もいて，もめてしまうことも多くある。

手洗いや支度をするとき，友達と順番を譲り合ったり，家から持ってきた身近な素材を皆で使うことができるように，友達に分けたりする幼児もおり，友達に対して思いやりをもって行動している幼児も多い。しかし，「自分が一番になりたい」という気持ちが強く，列に割り込んだり，「自分が全部使う」と道具や素材を取り込んでしまったりする幼児もいる。

3 週のねらいと内容

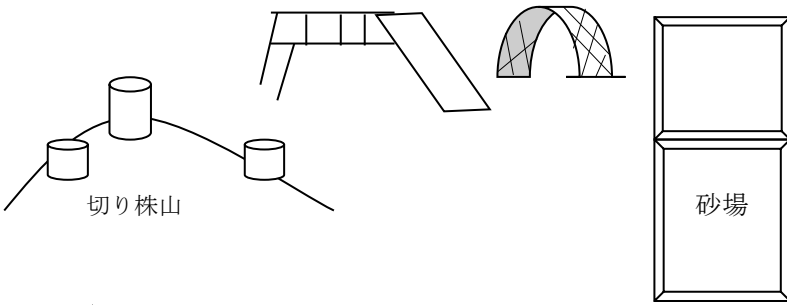
- 忍者になるために必要なものを考えてつくったり，組み合わせでつくったコースで思いっきり体を動かしたりして，忍者になりきって遊ぶことを楽しむ。
- 木の実や葉などの秋の自然物を使って，つくりたい物をつくることを楽しむ。
- 秋の虫を探したり，見たりすることを楽しむ。
 - ・ 忍者服の飾り付けをしたり，修行のコースを友達と考えてつくったりする。
 - ・ ドングリに飾りを付けたり，ケーキをつくったりする。
 - ・ コオロギやバッタ，カマキリなどを探したり，餌や葉を取り替えて，虫の様子を見たりする。

4 本日のねらいと内容

- 友達とやりとりをしながら，修行のコースをつくったり，つくった場で忍者になりきったりすることを楽しむ。
- 道具の適切な使い方，素材の適切な量を考えながら，好きな木の実を使って，飾りやケーキをつくることを楽しむ。
- 虫がいそうな場所に行って，探したり，飼っている虫の世話をしたりすることを楽しむ。

- ・ トンネル山で忍者修行をする。
- ・ ボンドの使い方を覚えながら，ドングリに顔を描いたり，帽子をつけたり，ケーキをつくったりする。
- ・ コオロギやバッタ，カマキリなどを探して，とったり，餌や葉を入れ替えて，虫の様子を見たりする。

5 本日の流れ

時間	幼児の活動	〔 〕 予想される幼児の姿	○ 環境の構成		
8:45～ 9:10	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登園する。 ○ 所持品の整理をする。 ○ 冬野菜の水やりをする。 		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;"> いちようひろば </div> 		
9:10～	<ul style="list-style-type: none"> ○ 好きな遊びをする。 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 忍者ごっこ ・ 木の実遊び ・ 虫とり・虫の世話 <p style="text-align: right;">など</p> </div>	<p style="text-align: center;">忍者ごっこ</p> <div style="border: 2px dashed black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>トンネル山のターザンロープをしたり、起伏のある丘を走ったりして、自然の中で思いっきり体を動かすことを楽しむだろう。巧技台の置き方やコースの回り方をどのようにするかを考えて、コースをつくるだろう。手裏剣を的に投げて、入るまで何度もやってみたり、入ったことを喜んだりするだろう。新聞紙の剣を使って、好きな的を狙って、剣を振るだろう。できたコースで、いろいろな術をして遊ぶ中で、順番を守ったり、安全な遊び方や道具の運び方をしたりすることの大切さに気付いていこう。自分なりに考える忍者のポーズや言葉を使って、忍者になりきって、友達や教師とやりとりをすることを楽しんでいるだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 忍者服、腰紐、三角コーン、手裏剣、サッカーゴール、手裏剣の的、新聞紙の剣、剣術の的、巧技台、看板、マット など ☆ 忍者言葉で話したり、決めポーズを一緒に考えたりして、忍者になりきって遊ぶ楽しさを共有する。 ☆ 安全な遊び方や道具の使い方を丁寧に伝え、自分たちで安全に遊ぼうとしたり、幼児同士で声を掛け合ったりする姿を認める。 ☆ 苦手な動きをやりてみようとしている姿を、支えたり、必要に応じて手助けをしたりする。 ☆ できるようになったことや成功したことを見てもらいたい気持ちを十分に受け止め、それぞれの頑張りやよさを十分に認める。 			
<p>「ジャンプの術は、どんなコースにしようか」</p> <p>「トンネルは暗いから、頭をぶつけないように気を付けてござるよ」</p> <p>「○○ちゃんが終わるまで、待っていたんだね」</p> <p>「巧技台を運ぶときは、どうやって持ったらいいのかな」</p> <p>「入るまで諦めずに頑張っていたね」「落ちないように持っているから大丈夫だよ」</p>		<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 50%;">さくら組保育室</td> <td style="width: 50%;">ちゅうりっぷ組保育室</td> </tr> </table>		さくら組保育室	ちゅうりっぷ組保育室
さくら組保育室	ちゅうりっぷ組保育室				

花壇

アジサイ園

築山

木の実遊び

ドングリに顔を描いたり、飾りを付けたりして、置物の家族や友達を増やしているだろう。切り株に小さな枝や葉っぱ、木の実などをボンドで貼って、つくったものを並べているだろう。並んだ飾りを見て、友達と同じ所や違うところに気付いて、一緒であることを喜んだり、付け加えたりするだろう。

- 紙粘土、新聞紙、秋の自然物（落ち葉、枝、ドングリ、木の実など）、ペン、ボンド、セロハンテープ、空き箱、カップ など
- ☆ ボンドやセロハンテープなど、素材に応じて、必要な分を使い分けられるように見守る。
- ☆ 幼児のイメージしているものを形に表すことができるように、色々な素材や使い方を提案する。
- ☆ 素材同士をくっつけたり、立てたりすることに苦戦している幼児には、援助したり、どのようにしたら上手くいくかを一緒に考えたり、近くにいる友達に聞いたりしながら、一緒につくる。

「少しずつ付けて、そっと乗せようね」「ドングリさんの友達が増えて嬉しそうだね。」
 「ボンドが乾いて、しっかりついたね」「困った時は、なんて言ったらいいかな」
 「どうやったらつくんだらうね。ここ持っていてあげるね」

虫とり・虫の世話

登園後、テラスに並べてある飼育ケースを覗いて、虫の様子を見るだろう。虫を探すために、草むらに行ったり、防草シートをめくったりするだろう。虫を見付けると、友達に知らせたり、飼育ケースを持ってもらったりして、一緒にケースに入れようとするだろう。虫の頭や体を見て、何の虫かを考えたり、図鑑を見て確かめたりするだろう。飼育ケースの中の草や餌が古くなっていることに気付くと、新しい物に取り替え、虫が新しい草や餌を食べるかどうか、じっと見ているだろう。

- 虫網、飼育ケース、野菜や果物の皮、昆虫図鑑、飼い方の絵本 など
- ☆ 虫の特徴や違いに気付くことができるような言葉を掛けたり、虫に詳しい幼児に話を聞いたりして、虫への興味や好奇心を広げられるようにする。
- ☆ 虫をとりたい気持ちと触ることへの不安で葛藤している気持ちを認め、一緒に探したり、飼育ケースに入れることを手伝ったりして、虫への親しみがもてるようにする。
- ☆ 虫のために自分から世話をしようとする姿や可愛がる姿を十分に認める。

「このバッタとこのバッタは、似ているね」「〇〇くんなら、名前を知っているかもね」
 「網を持っているから、〇〇くんはケースを持っていてね」「今日のご飯がなくて、悲しそう」
 「いっぱい食べてるね。〇〇ちゃんのご飯を入れてくれたから、嬉しそうだね」

ぼぶら組保育室	絵本の部屋	アトリエ	遊戯室	多目的室	職員室
---------	-------	------	-----	------	-----

時間	幼児の活動	○ 環境の構成 ☆ 教師の援助
10:30	○ 片付ける。 ○ 排泄、手洗い、うがい、水分補給をする。	☆ 手洗い、うがいを見守り、必要に応じて言葉を掛ける。
10:50	○ 集まりをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダー確認をする。 ・出席確認をする。 ・歌を歌う。 <p style="text-align: right;">など</p> </div> ○ ふりかえりをする。 「ききましよう・おはなしましよう」	☆ 幼児が集まるまで、早く終わった幼児と一緒に手遊びをして待つ。 ☆ 聞いている幼児も興味をもてるように、楽しかったことを引き出したり、言葉を捉えるように尋ねたりして、翌日の活動につなげていく。

- 幼児の言葉を引き出したり、よく聞き、うなずいたり、繰り返したりする。
「〇〇をしたことが楽しかったんだね。誰としたの？」
- 自分から話すことが得意ではない幼児には、教師が見た姿を他の幼児に伝えたり、質問したりして、きっかけをつくる。
「〇〇さんは、〇〇をしていたね。どんなことが楽しかった？」
- つくったものを皆に共有することができるように、聞いている幼児に実物を見せながら話すように促す。
「〇〇をつくったんだね。皆に見えるように見せてあげたら？」

6 評価の観点

- 忍者ごっこのいろいろな修行コースの中で思いっきり体を動かして遊んだり、友達とやりとりをしたりしながら、なりきって遊ぶことの楽しさを感じていたか。
- 秋の自然物から、自分のつくりたいものを考えてつくる楽しさを感じたり、道具を友達と順番に使ったりしながら、素材や道具を大切にしようとしていたりしていたか。
- 命あるものを大切にしようという気持ちをもって、虫を探したり、世話をしたりして、いろいろな虫と関わることを楽しんでいたか。
- 「ききましよう・おはなしましよう」の中で、自分のしたことを相手に伝える楽しさを感じたり、友達の話聞いて、興味をもち、自分もやってみたいという気持ちを高めたりしていたか。